

平成 20 年 5 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社 fonfun
代表者名 代表取締役社長 三浦浩之
(コード番号 2323)
問合せ先 執行役員経営管理部長 小松昌弘
(TEL 03-5350-7800)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）におきまして、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでお知らせするとともに、最近の業績の動向等も踏まえ、平成 20 年 2 月 13 日の決算発表時に公表いたしました平成 20 年 3 月期連結および個別の通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生とその内容について

(1) 連結

①のれん減損 285 百万円

個別決算における子会社株式の減損処理に伴い、連結決算上当該連結子会社ののれん代を償却することといたしました。

②その他特別損失 82 百万円

ソフトウェア除却損 24 百万円、投資有価証券評価損 23 百万円、貸倒引当金繰入 22 百万円等を計上することといたしました。

(2) 個別

①子会社株式評価損 302 百万円

当社連結子会社（株）グローバル・コミュニケーション・インクで展開している携帯電話販売事業において、下期に新規出店を計画しておりましたが、第 4 四半期においても既存店舗での販売が予想を大きく下回る見通しとなったことから、出店基準の見直しを図り新規出店を中止し、既存店舗での営業基盤の安定化に努めてまいりました。しかしながら、販売台数の不振による粗利益の減少が大きく、営業赤字が拡大しましたことから、当社連結子会社（株）グローバル・コミュニケーション・インクに対する出資額 216 百万円につき、現状の収益状況および純資産の状況などを勘案し、株式評価損を計上することといたしました。

また、当社連結子会社上海網村信息技术有限公司について、これまでのモバイルコンテンツ事業からモバイルメディア事業への事業転換に伴うストラクチャーの見直しを行った結果、

純資産の状況を勘案し、株式評価損 86 百万円を計上することといたしました。

②貸倒引当金繰入 97 百万円

連結子会社（株）グローバル・コミュニケーション・インクに対する貸付金につき、現状の収益状況および純資産の状況などを勘案し、貸倒引当金を計上することといたしました。

③その他特別損失 76 百万円

ソフトウェア除却損 24 百万円、投資有価証券評価損 23 百万円、のれん減損 21 百万円等を計上することといたしました。

2. 平成 20 年 3 月期連結業績予想数値の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	3,100	10	10	10	472 93
今回修正予想（B）	2,917	△145	△157	△536	—
増減額（B－A）	△183	△155	△167	△546	—
増減率（%）	△5.9%	—	—	—	—
前期実績（平成 19 年 3 月期期末）	2,719	170	161	152	7,176 47

3. 平成 20 年 3 月期個別業績予想数値の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,300	70	70	80	3,783 41
今回修正予想（B）	2,242	26	27	△468	—
増減額（B－A）	△58	△44	△43	△548	—
増減率（%）	△2.5%	△62.8%	△61.4%	—	—
前期実績（平成 19 年 3 月期期末）	1,922	171	172	184	8,711 76

4. 修正の理由

(1) 連結業績

売上高につきましては、連結子会社（株）グローバル・コミュニケーション・インクで展開している携帯電話販売事業において、携帯通信会社の端末価格や販売奨励金体系の見直しの影響などによる携帯電話販売の不振が第4四半期においても続いており、前回発表の業績予想を下回る見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、個別業績の修正要因に加えて、連結子会社で展開している携帯電話販売事業において、販売台数の不振による粗利益の減少が大きく、また販売管理費を抑制することができず、前回発表の業績予想を下回る見通しとなりました。

当期純利益につきましては、上記「1. 特別損失の発生とその内容について」に記載の特別損失 367 百万円を計上することにより、前回発表の業績予想を下回る見通しとなりました。

(2) 個別業績

売上高につきましては、利益率の高いモバイルサービス・コンテンツ事業における携帯ゲーム機向けソフト開発の遅延による販売延期や、携帯販売子会社を通じたモバイルサービスユーザーの獲得不振等の影響があり、前回発表の業績予想（平成 20 年 2 月 13 日付）を下回る見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、販売管理費の抑制があったものの利益率の高いサービスの販売延期により粗利益の減少が大きく影響し、前回発表の業績予想を下回る見通しとなりました。

当期純利益につきましては、上記「1. 特別損失の発生とその内容について」に記載の特別損失 475 百万円を計上することと、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、40 百万円の取崩しを行なうため、前回発表の業績予想を下回る見通しとなりました。

以 上

<p>※ 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。</p> <p>※ 平成 20 年 3 月期決算発表は、平成 20 年 5 月 13 日に予定しております。</p>
